



Life & People

有限会社白石木工

LIFE & PEOPLE
SHIRAIISHI MOKKO Recruit Book

世界は、 あなたの手を 待っている。

私たち白石木工は、木製家具や建具を
オーダーメイドでなんでも作る職人集団です。
私たちが一点一点心を込めて作る製品は、
使う人だけでなく、私たち自身
やがてはすべての人を笑顔にします。
あなたの手が、世界を変えていく、
ものづくりに挑戦してみませんか。





LIFE & PEOPLE
SHIRAISHI MOKKO

People 01

高橋 光 入社4年目 秋田県横手市出身

材料を0.1ミリ単位まで見極めることが
仕上がりを大きく左右する。

突板(つきいた)と呼ばれる家具の材料を注意深く見ると、規格品の中でも実は0.1ミリ単位で厚さが違うんです。それを自分で確かめながら加工して、図面通り作れるように整えていきます。地道な作業かもしれないけれど、この下準備がとても大切で、製品のクオリティに大きく関わることが分かったんです。

今、入社して4年目ですが、まだ自分の知識や技術では作れないものが沢山あって、先輩のように作れたらなという憧れがあります。



1年目、2年目と比べると、自分が担当する仕事がどんどん難しくなっていると感じます。ぼくはそれがやりがいで、もっと良いものを作ってやろうという気持ちになります。

自分がどのくらいスキルアップしているかを客観的に知れるという意味でも資格に挑戦したいと思い、家具手加工の一級技能士を目指しています。

People 02

舟山 浩樹 入社15年目 宮城県仙台市出身

現場は、教科書にない知識の宝庫。

学生時代から建築を学んでいて、ゼロからものを作る楽しさを感じていました。興味があることはとことん知りたくなる性格で、木工のことも沢山学びましたが、教科書に書いてある知識と、現場での事がイコールにならない場合もあります。そんな時は、現場の職人に聞いて、より良い方法を考えていきます。また、私が新人に教える時は、必ず意図をしっかりと伝えた上で、自分でも考えてもらうようにしています。プロジェクトのスタートが1で、ゴールが10だとして、全ては伝えずに間の4~6を新人に考えてもらいます。考えることで気づきがあり、教科書にないその人自身の知識になっていきますから。



入社して15年経ち、お客様との打ち合わせから図面の作成、現場の管理と、プロジェクトをまとめられるようになりました。都内四つ星ホテルの内装工事を3か月以上担当し、おさまりがとてもシビアな木工造作の現場の中でも、現場監督として大工さんや、他の協力会社とのコミュニケーションをしっかりとることで、チームとしていい仕事ができるということを実感しました。これからは、あとに続く後輩が良いチームを作れるようにサポートしていきたいと思っています。



四つ星ホテルの内装工事の様子

1日

TIMELINE OF ONE DAY

仕事スタート。電動工具で材料を加工する。



8:30

お昼休憩は事務所で。今日は手作りのお弁当。



12:00

使用した工具のメンテナンス。これがとても大事。



16:50

7:50



工場へ出勤。朝礼で共有事項を確認したら、全員でラジオ体操。

10:00



進み具合を確認しながらちょっと一息。

14:30



わからないところは頼れる先輩に教わりながら仕上げていく。

17:45



仕事の進捗と明日の工程を確認して、今日は退勤。

1日

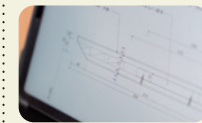
TIMELINE OF ONE DAY

製品の進捗確認や、納期の打ち合わせ。



8:40

CADソフトを使って製作図面を描く。



13:00

アフターケアの依頼を受け現場の予定を調整。



16:50

8:00



工場と同じ敷地内の事務所へ出勤。

10:00



お客様や取引先とのメールを確認しながら小休憩。

14:00



描いた製作図面を持って、早速現場の職人に依頼。

18:50



翌日の現場に必要な物を準備。納期によっては遅くまでかかることも。

People 03

阿部 正真 入社3年目 岩手県一関市出身

たった一枚のパネルが、
自分の手で製品になっていく面白さ。

木工はまったくの未経験でしたが、興味があってもものづくりの世界に飛び込みました。初年度はとにかくお手伝いです。職人の技や速さに圧倒されて、自分でもできるようになるのかなど、少し不安に思っていました。今は3年目で、難しい図面の「ワークカウンター」を担当できるようになり、自分の成長を実感しています。材料のパネルは同じなのに、組み立てや加工でまったく違う製品になるというのも、木工の魅力ですね。まだ作ったことがないものがあり、これから幅広く製作してみたいです。



無垢材(むくござい)は「木」自体に個性があって、ねじれや反りを見極めながらビスで止めていくんですが、今はそれが難しく、経験豊富な先輩にアドバイスをもらっています。また、道具の使い方や研ぎ方なども、基本から丁寧に教えてもらえたので、未経験の僕でも何とかなっています。自分で揃えた手加工の道具も、だんだんと愛着が湧いてきて、刃が欠けないように丁寧に扱うようになりました。

1日

TIMELINE OF ONE DAY

設計の先輩と職人たちの打ち合わせ。



8:30

風が気持ち良い日は自然を感じながら車でお昼も◎。



12:00

大切な道具のチェック。ノミの刃は欠けていないかな。



17:00

7:30



相棒のジムニーで工場へ。少し早めの出勤。

10:30



先輩のサポートをしながらスノコの板を固定していく。

15:00



先輩とコーヒー休憩。作業に集中するためにも、息抜きが大事。

17:45



タイムカードをビビッと押して、お疲れ様でした。



4年目
山北さん

代表10年目
白石さん

3年目
阿部さん

10年目
佐藤さん

ホンネでトーク -白石木工ってどんなところ?-

白石木工について気になる5つのテーマで語ってもらいました。

入社してびっくりしたことは？

山北:私は作っているものの大きさにまず驚きました。家具って聞くと、やはりテーブルとか、棚とか、「引き出しのある何か」くらいのサイズかなって思い込んでいたんですが、壁も天井もあって、そこに扉が付いて、さらに扉の裏には鏡が付いてと、想像をはるかに超える大きなブースを作っているのを見て、衝撃を受けました。
阿部:僕も大きさには驚きましたね。佐藤さんが先輩の職人と一緒に円柱形の大きな棚を作っているのを見て、本当にびっくりしました。

佐藤:あれは某コーヒー屋さんの商品棚ですね。輸入食品なんかも所狭しと並ぶお店なので、天井まで届くほど大型になっているんです。

山北:四方どこから見ても商品が見える構造で、作るのが大変そうですね。

佐藤:おれは木で曲線のものを作っていることに驚きましたね。自分にそんな発想はなかったんで。実は中が空洞だったとか、

そういった構造にも驚いた記憶があります。

白石:そんな佐藤くんも10年たって、もう一人前だし、すごい技術が身についたよね。品質も高いし、スピードも速い、もう全部兼ね備えているよね。

ものづくりで大切にしていることは？

佐藤:お客さんにはこのレベルじゃないと提供できないという基準が、自分の中にありますね。良いものを作るにはプロ意識が必要ですから。

白石:僕は会社を経営する立場だけど、自分でも、ものづくりができるというのが大切だと思っていて、手加工の技能検定に挑戦したり、YouTubeでDIYの動画をアップしてみたりしているよね。社員にやりなさいと言って、自分ができないのでは、話にならないからね(笑)。

佐藤:10年やっていても、先輩方の技術は素晴らしいと思いますし、色々な経験をしていて知識も上です。なので職人への尊敬の念は忘れないですね。



阿部:僕は道具を大切にしています。ノミの研ぎ方も先輩に教えてもらって、自分の大事な道具として刃が欠けたりしないように気を付けています。

白石:手加工の道具というのは一生に近い年月をかけてメンテナンスして、自分の形に合わせていくものだからね。例えばベテランの伊藤さんのノミなんか、何度も研いでも小さくなって、ギリギリまで使っているよね。近頃は手加工の出番も減っては



きているけれどね。機械の方が精度が高いし速いから。

佐藤:それでも、設計が難しくなるにつれて、手加工は必須になってきますよね。触ってみて0.1ミリ出ているところを削ったりとか、

手加工じゃないとできない作業も多くなってきます。

白石木工でのやりがいや喜びは？

山北:私は、計画した通りに事が進んだとか、思ったより早く仕上がったとか、作り直しやミスがなくてできたなど、成長を実感した時に嬉しくなります。

佐藤:一人で、家具や什器を作ることができるというのは、やりがいですよね。何もないものから価値を作り出せるということが良いですよね。

阿部:工場長から「さすがやるやん」と褒められることが、素直に嬉しいです。任せてもらえることが増えていくのも、自分の成長を実感できて良いです。

山北:同じものをずっと作り続けるわけではなくて、その都度違う材料で色々なものを作れることがいいですよね。あとは、担当したチームの施工管理の方から、無事におさまりましたとか、お客様からのお褒めの言葉を、社長をとおして聞くことがあって、そんな時はやりがいを感じますね。だからこそ目標設定が高くなっていて、妥協はできないので途中でやり直したり、遅くまで残って納得できるまでやってしまいます。



阿部:繁忙期はありますよね。納期が集中したりして時間が足りないと思うことはあります。

ズバリ!白石木工ってどんな会社ですか？

白石:ひとことで言うと、うちは何でも作れる職人集団だよ。家具屋って言っても、色々な家具屋があってね、50人以上の大きな会社だとライン生産で、単一の仕事しかないというのも多くて。だけど、同じものを10年作り続けたから職人になれるかといったら、それはなれないんだよね。だったら色々なものを何でも



も作れる職人になろうと、先代からも言われていて、僕もその方がいいと思っているんだよね。だけど一品一品違うから、毎回考えることが多くてそれは大変なんだけどね(笑)。



これから白石木工を目指す人へ

阿部:僕は白石木工に入るまでは、家具の製作に携わったことがまったくなくて、木工のことを学ぶことなくここに来たのですが、こんな僕でも興味があるというだけで意外と何とかなったんで(笑)。木工に興味がある人はぜひ臆せずに入社してもらいたいですね。

白石:阿部くんは、何とかするようにちゃんと努力しているんだよね。だから何とかなっている。みんな自分の力で何とかしていくんだよ、努力と経験だね。そうやって一個一個積み重ねたものが次に繋がっていくと僕は思うよ。

山北:私は一応学生時代も家具のことを勉強していたんですが、女性ということもあって、力の部分で自分の手に負えないところがあります。そんな時は周りの人の力を借りて、助けていただきながら作っています。職人のほとんどが男性なので、女性としては不安に思うかもしれませんが、仕事に対しても人間関係に対しても、臆せずやってみるとというのが一番良いと思います。

佐藤:やっぱり「やりたい気持ち」が一番なのかなと思いますね。ものづくりに対する熱意がないと、製品に誠意を込められないので。あとは、ミスを恐れないということが大事です。一人で作る時や、チームで作る時も、やはり人間は必ずミスをするので。それでも失敗を恐れなくて挑戦していけることが、自分のためにもなると思います。そういう前向きな方が来てくれると嬉しいな。

白石:ホームページには、こういう人材を募集していますと書いてあるけれども、まず第一に「木工に興味がある」ということが一番大事だよ。好きになるかどうかは、やってみないと分からないからね。ここにいるみんなも最初は「興味がある」がきっかけ。

佐藤:おれもそうですね。元は違う業種で営業職でしたから、やはり「興味がある」からスタートしていますね。

白石:あとはきちんと挨拶ができることかな。コミュニケーションの第一歩だからね。

よく学校の説明会で、「入社前に



どんな技術があった方がいいですか」とか、「どんな資格があった方がいいですか」とか結構聞かれるんだけど、それよりも、ものづくりに興味があって、きちんと挨拶ができることが大事なポイントなんじゃないかな。

山北:挨拶は大事だと思います。仕事では職人同士で多くは話さないですし、話すことが得意じゃない方もいると思うので、挨拶でコミュニケーションを取ることは必要です。

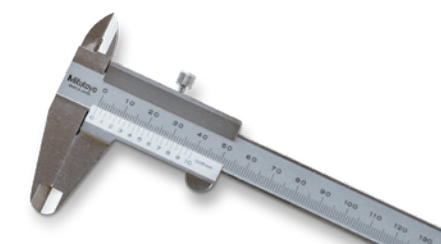
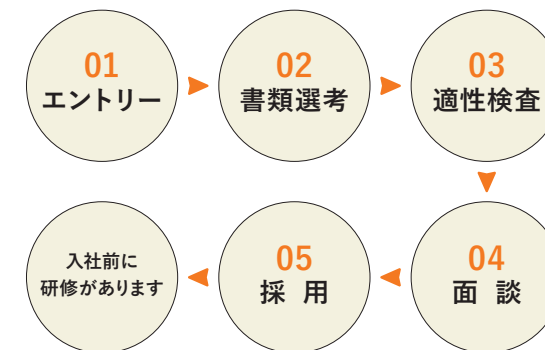
白石:例えば学生だったら、入社前のスキルを気にするよりも、学生時代でしかできない時間を大事にしてほしいよね。友人と学生生活を謳歌した方がいいと思う。

白石木工は勉強会で機械の使い方手加工の道具の使い方教えるし、新入社員研修でビジネスマナーも教えているから、入ってからできるようになっていくんだよね。

心配なことはいっぱいあるけれども、思い切って飛び込む勇気が大事だからね。

ものづくりに興味がある方へ /

採用の流れ





採用情報サイトから
まずはエントリー

有限会社白石木工

〒981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字北原30-1
TEL.022-393-7380 / FAX.022-393-7381

TOKYO OFFICE

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2丁目17-7-3F
TEL.03-5809-3912 / FAX.03-5809-3913